

平成29年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(国語)科目：(国語総合) 対象：(第1学年A組～E組)

科目担当者：現代文…(A～D組：印)(E組 印)

：古 典…(A～D組：印)(E組：印)

教科・科目の 指導目標	漢字・語彙力等の基本的な知識を強化し、授業、問題演習、読書活動を通じての読解力の向上と、問いに対して的確に表現する力を養う。 古典分野については、基礎的な古典文法や漢文の句法を習得し、古文・漢文に積極的に親しむ態度を養う。
----------------	--

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1. 80%～99%の正答率。(「跳躍」が読めない。) 2. 「善戦」が52%、他は75～90%の正答率。彙力不足と書き取り練習不足の点が見られる。 3. 問1が66%、その他が85～99%の正答率。叙述や描写に即して、文の意味や登場人物の心情を読み取ることは概ねできているようである。 4. 問1～問4の説明文の読解については、概ねできているようである。問5の記述問題については、無回答はいなかったが約3割が0点となるなど、全体的に正答率は低かった。 5. 問4が70%、その他が80%台の正答率。現代文と比較しても極端に正答率が落ちていないことから、古文を含んだ文章を読み取り理解す	1. 漢字力の強化。 2. 語彙力の伸長。 3. 読解力・表現力の育成。 4. 指示内容的な確な把握力。 5. 段落構成の正確な把握力の涵養。 6. 主旨や主題の的確な把握力の伸長。 7. 問題演習の機会の提供。	1. 漢字小テストの実施。 2. 語句の意味調べ等。調べ学習の実施。 3. 教材文における指示語の抽出と指示内容の確認。 4. 評論文における主旨の把握演習。 5. 作文・小論文指導。 6. 文語文と文語文法演習。 7. 朝学習の実施。 8. 定期考査時に課題集より出題。 9. 長期休業中に課題を課し休業明けに試験を実施。 10. 学習が十分でない生徒へ補習。 11. 読書指導の実践と図書館利用の推進。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			